

三分、これは以前私のいところが測った祖母が覚えたことを忘れるまでの時間です。私の祖母は認知症です。三年前に祖父が亡くなり埼玉で一人暮らしをしていたものの認知症を発症し夜に徘徊するようになりました。一人暮らしは難しいと判断され半年前から老人ホームに入所しています。祖母の記憶は昔のこと以外は全て三分で塗り替えられるため今までなんども見たものでも常に新しいものを見るようになんども驚いたり喜んだりします。

少し外に出るだけで今自分がどこにいるのかも分からなくなってしまう祖母に私に会うといつも「大きくなったね。鏡の前で比べてみない?」「何年生になったの?」の2つを永遠に繰り返します。最初は母からも祖母は本当に忘れていただけだから毎度ていねいに答えるようにとも言われていたので真面目に毎回答えていましたが、回数が重なっていくうちに何回言ったら気が済むのかとさすがに私自身が、いらだちを感じるようになり、祖母という時間は昔であったらとても楽しかったはずなのにストレスだと感じるようになりました。そして、お願いだから話しかけないでと強くあたってしまうようになり、例えば私が祖母に怒ったとして怒られたことすらもすぐに忘れあっけらかんと元に戻るのを見ているだけでも腹が立ち、会うことを避けるようになりました。

そして一番困ったのは祖母が今まで住んでいた家についてでした。祖母は今住んでいる老人ホームをホテルのような物だと思っているらしくいつも荷物をまとめて帰ろうとしています。そんな行動を見ているうちに回りでも意見が二つに割れるようになりました。一つは律儀に毎回ここがどこで今家がどんな状況になっているのか真実を説明すること。二つ目は家はもう壊したと嘘をつきそれ以上は話さないということです。一見二つ目は最低な行動にも見えますが、これからの人生を何も心配することなく安心して過ごして欲しいと思う事からの行動だと思います。どちらのやり方も相手を思っていることであり間違っているもあっているもありません。また祖母にとってどちらの方法が良いのか、祖母がどちらを望んでいるのかも祖母本人にしか分かりません。私はこの認知症との向き合い方に難しさを感じたのをよく覚えています。

そして今、祖母はだんだんと老人ホームでの生活に慣れてきています。けれど今の祖母は私が孫だという認識はあるものの私の名前をもうはっきり覚えていません。私の事を、祖母の妹や子供、ひどい時には誰かも分からない名前と呼ぶようになりました。私が祖母と会う事を避け、会いに行かないうちに記憶から消えてしまったのかもしれませんが、いざこの様な状態におかれてみると、小さい頃私に優しく接してくれる祖母が大好きだったことなどを思い出し、あの強く祖母にあたっていた時期に後悔を覚えるようになりました。今思えばさすがに強く当たりすぎたなと思います。そして、ただ昔の祖母と比較してしまい現状の祖母とのギャップを自分が受け入れられていなかったのだと思います。最近では兄弟などに比べれば少ないものの私も祖母に会いに行くようになりましたが聞いたところ認知症の進行は止まることなくどんどん進んでいるそうです。八十五歳以上の高齢者の四

分の一が認知症をわずらっている今、改めて認知症の方々への接し方を考えていかなければいけないと思います。そして祖母に会える時に会い、楽しい時間を過ごせられるようになれたらいいなと思いました。